

自己点検・評価について

自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		本学では、本プログラム構成科目を必修科目としている学部とそうでない学部に分かれている。総合政策学部、歯学部、薬学部は、本プログラムを必修科目のみで構成している。総合政策学部では、文科省のリテラシーレベルに対応するため、独自の資料・教科書を作成している。必修科目と選択科目で構成している商学部、経済学部と選択科目のみで構成している文学部、経営学部、法学部、心身科学部、心理学部では、教務課と連携して本プログラムの履修・修得状況のデータを共有した。なお、経営学部では、必修科目でないものの大半の学生の履修が確認されている。経営学部と心理学部では授業担当者が、受講者ごとの科目履修状況や課題への回答状況をTeamsやWebCampusを通じて把握できる環境となっている。
学修成果		商学部・経営学部・経済学部・総合政策学部・歯学部・薬学部の各学部では試験・課題等の成果・成績の経年的な比較や単位修得状況および講義担当者からのフィードバックをもとに学生の理解度や学修成果を把握している。文学部・法学部・心身科学部・心理学部においても、教務課より提供された成績、授業アンケートデータおよび個別学生との面談機会のある学部では直接の面談結果により、学生の理解度や学修成果を把握してきた。その結果は、データサイエンス教育プログラム委員会へ報告・共有されており、次年度以降への改善にむけた検討材料となっている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		セメスター毎に全学的に実施している「授業アンケート」において、対象分野への関心の高まりや知識・技能向上への役立ちといった項目を通じ、学生の理解度について分析し、その分析結果を元にして学習内容に対する学生の理解度を推測している。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度		セメスター毎に全学的に実施している「授業アンケート」の回答結果に基づいて、後輩等の学生への推奨度について推測している。このアンケートでは、「学問分野への関心」、「知識・技能などの向上」および「受講の満足度」を定量的に把握できる。これに加え、「自由記述」欄の回答で受講生の具体的な意見を確認している。定量的な分析だけでなく、この自由記述回答における肯定的な意見を踏まえて、推奨度を評価することができる。これらの推奨度に関する分析結果をオリエンテーション等で学生に示し、未受講の学生への講義推奨に活用する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		総合政策学部では再履修クラスを設けるなど、単位修得率の向上に向けた取り組みが行われている。必修科目と選択科目で構成している商学部・経済学部と選択科目のみで構成している文学部、経営学部、法学部、心身科学部、心理学部では、オリエンテーションや学習支援室、ホームページ等において、数理・データサイエンス・AI教育の内容についてガイダンスが行われ、より多くの学生が履修選択するように取り組んでいる。商学部では、本年度よりオリエンテーションや講義内で周知し、履修者数を推進する取り組みを実施した。ただ、全学的に終了証発行申請者数が終了者数に比べて少なく、学生への周知が必要となっている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	現在、すべての学部において本プログラム修了者が卒業していないため、進路、活躍状況および企業等の評価については把握できていない。しかしながら、現在、各学部がその把握のための具体的な検討を行っている。 たとえば、一部学部において、本学キャリアセンター就職課と連携した卒業生の採用状況の実態調査、同窓会を通じた在学生と卒業生の交流機会を利用したヒアリング、外部団体・協会による卒業生に対する就職実態調査、本学の近隣関係企業との交流を通じたヒアリング、卒業生調査による卒業生の進路先や活躍状況の把握など、多様な手法によって、調査結果等に基づいた点検・評価を予定している。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	上記項目と同様、現在、本プログラム修了者が卒業していないため、実態を把握できていないが、既に各学部では具体的な検討を行っている。たとえば、一部学部において、インターンシップの依頼がある企業、産学官連携講座の協力企業など、キャリアセンターと社会連携センターを通じて意見を収集すること、共同研究等提携企業および本学のシンポジウム等に参加している企業に対してアンケートを実施し、教育プログラムの手法について意見を収集すること、関連するシンポジウム等に参加している企業との意見交換を通じて、本学の取り組みの紹介と教育方法の知見を収集してプログラムの改善を行うことなど、多様な分析手法によって点検・評価を予定している。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させるために、各学部や講義の特色に応じ、以下の取り組みを行っている。 ①実務経験のある教員が、開発現場やビジネスで必要となる技術や知識を紹介する。 ②時事やトレンドなどをもとにAIの活用を紹介し、好奇心を喚起する。 ③学生アンケート等を活用し、興味関心の高いトピックを選定する。 ④身近なデータサイエンスやAIに関する技術などを紹介し、学ぶ意義を高める。 ⑤産業界の視点や意見をフィードバックする。 ⑥将来の学びに備え、カリキュラム全体を周知する。 ⑦学生が解決できない問題をフォローし、全員のプログラムの完成を目指す。 ⑧目に見えて達成感を味わえる授業構成とする。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	「分かりやすさ」の観点から、講義内容・方法の見直しを定期的実施している。具体的には、各学部や講義の特色に応じて、以下の取り組みを行っている。 ①学生アンケートや提携企業、卒業生からの意見を参考にした改善を行う。 ②授業内で理解度を確保するための演習やワークを実施する。 ③授業における課題や改善方法について、FD活動を通して教員間で共有、実践する。 ④Teamsなどを活用し、問題を随時解消する。 ⑤学習支援室を利用し、学生への相談体制を整備する。 ⑥授業の各段階にて、学生が前進していることを自覚できる講義構成とする。 ⑦身近な事例を交えて説明し、学生の興味関心を高める。 ⑧科目間連携を高め、次の科目の理解度を高める。